

令和7年度 とうきょう すくわくプログラム推進事業 活動報告書

園名	台東区立石浜橋場こども園
所在地	台東区橋場1-35-1

1. 活動のテーマ

<テーマ>

身近な環境に関わり探究する幼児(元気な体プロジェクト)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など)

自ら体を動かして遊ぼうとする意欲をもち、自分の体の使い方を知り運動の幅を広げたり、運動の環境を工夫し構成したり、新しいことに繰り返し挑戦したりする楽しさを味わってほしいと考えた。

2. 活動スケジュール

9月12月 2月 講師を招聘したコーディネーショントレーニングや親子運動遊びの会
通年 園庭の遊具、用具などを使って、様々に体を動かす環境を工夫して構成して遊ぶ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○様々な動きが体験できるように

- ・自分が選択して選べるような年齢や発達に応じた遊具を用意する。
- ・講師の先生方に教えていただいた運動遊びを継続して遊ぶことができるような環境づくりを行う。

4. 探究活動の実績

<活動の内容>

○様々な体の動きを体験できるように

- ・コーディネーショントレーニングでは、講師の指導で発達に応じた鬼遊びや楽しむ中で、様々な動きを楽しむ
- ・巧技台遊びや縄跳び、ボール遊びなど、自分たちで遊びの場を考えて設定し、身体を動かす楽しさやめあてをもって遊ぶ

【今年度新しい取組】

- 親子で体を動かす楽しさを感じたり、保護者が子供が体を動かすことの意義や今後の発達の見通しなどを感じたりできるように
- ・土曜参観を活用し、講師を招聘して親子運動遊びの会の開催
- ・コーディネーショントレーニングの会の参観

<活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり>

- 親子で運動遊びの中では、「久々の運動だから大人はきついです」という声も聞かれたが、保護者が子供が運動することの大切さを感じながらかかわりを楽しんでいた。
- コーディネーショントレーニングは、園内にあるものを使った活動ということもあり、「やってみたい」「もう一回やりたい」「もっとやりたい」と積極的に取り組む姿が多く見られた。その後、同じように場を作り活動を行った。
- 普段の遊びの中で、巧技台や鬼遊びなど、様々な運動遊びを発達に応じて楽しむ中で、思い切り体を動かす楽しさや、周りの幼児の刺激を受けて自分もやってみようとする姿も見られた。

上記を受けて、体を動かそうとする意欲の向上、自分たちで工夫しようとすることを多くしたい。

<活動の様子>

【親子運動遊びの会】



【コーディネーショントレーニング】



5. 振り返り

- 講師の指導を親子での活動や参観にしたことで、どのように体を動かすことが、今後の鉄棒や縄跳び遊びに繋がっていくかを具体的な活動を通して学べる機会となったり、保護者自身が、徐々に体を動かす心地よさを感じる機会となったりした。親子で一緒に楽しむことが、子供たちが様々な体の動きを楽しむことに繋がっていくのではないかと感じた。
- 他の学年が楽しく活動している姿を見たことで、興味や期待感・やってみようとする姿につながっていた。同じ学級の友達だけではなく、刺激し合えることも意欲につながっていくことを感じる事ができた。そのことが、「もっとやってみよう」という探求の芽に繋がっていくことを感じた。
- 講師に指導をいただくことで、遊具の使い方や体の動かし方など、今まで自分たちだけでは考えつかなかったことを知る機会にもなり、保育者の指導の幅が広がる機会ともなった。保育者の指導の幅が広がることで、子供たちが探求しようとしていることの実現に繋がり、達成感や満足感が次への意欲になるのではないかと考える。

以上